

電光太陽に保育園

一環の活動普及NPO 式設置で伏見

太陽光発電で点灯したアンパンマン人形

伏見区のかがやき保育園で



「元氣いっぱい 温暖化防止」

伏見区小栗栖の「かがやき保育園」（村井祐昭園長）に太陽光発電システムが導入され、発電パネルの設置式が15日あった。下京区のNPO法人「きょうとグリーンファンド」（板倉豊理事長）などが自然エネルギーの普及に取り組み、太陽光パネルの設置事業「おひさま発電所」の一環。01年から府内の保育園などで行われており、今回が9カ所目。

設置したパネルは最大出力容量10・75キロワット。同保育園で消費される電力の約3割をまかなえる見込みという。発電して得たうちの一定額を10年間、ファンドの「おひさま

ま基金」に寄付する決まりで、その基金は別の施設への設置費用に充てられることになるという。

園児らは太陽光発電の電気で点灯するアンパンマン人形の前で、「スト

ップ・ザ・温暖化たいそ

う」を披露。「まめに抜こうよコンセント」と元気いっぱい歌声を響かせていた。ファンド（075・352・9150）は、保育園や幼稚園などを対象に、来年度のパネル設置施設を募集している。

【細谷拓海】



毎日新聞



2006年（平成18年）12月17日（日曜日）